

校友会誌

かまゆ

第57号



平成27年11月5日 体育祭開会式  
本年度初めて体育祭を屋内（日本ガイシホール）で実施しました

#### 掲載内容

校友会会長 あいさつ  
学校長 あいさつ  
卒業生からの寄稿  
教員の学科紹介  
校友会事業経過報告  
特筆すべき学生  
ちょっと聞いてちょ自慢話  
母校の主な出来事  
学園あれこれ2016  
校友会支部から

2016年3月9日発行  
名古屋工学院専門学校校友会  
名古屋市熱田区神宮四丁目7番21号  
<http://koyukai.denpa.ac.jp/>

## 『校友会・新たな出発』

会長 池戸 博行



校友会会員の皆様におかれましては、益々のご健勝とご活躍のこととお喜び申し上げます。

第30・31期校友会会長として、2期4年間の職責を会員の皆様とともに、学園と連携を図りながら活動してまいりました。4年間を振り返ってみると、校友会の支部は、

これまで、東京・富山・石川・福井・三重・大坂・四国・沖縄の8支部でしたが、平成25年に静岡支部と長野支部が発足して10支部となりました。平成26年には校友会のホームページをリニューアルしました。パソコンだけでなく、スマートフォンにも対応させ、校友会からの情報発信を強化して、卒業生の皆様との絆をより深めてまいりました。

また、ここ数年、校友会の会則改正について、常任役員会で議論・検討してまいりましたが、平成27年3月臨時役員会において会則改正の承認を得て、平成27年4月より新会則が施行されました。改正の内容は、次の2点です。

1つ目は、従来の校友会支部に加えて、卒業生の各種同窓会も校友会組織に加入できるようにになりました。会則でいう同窓会とは、卒業年度別、産業界又は職場別、学科又は分野別に組織された

卒業生の会です。このことにより、愛知県及び愛知県近郊に就職した卒業生との繋がりを密にし てまいります。

2つ目は、校友会業務に伴う日当や出張費の改正です。校友会活動は、日頃の仕事とは別に休日 を裂いて母校の発展の為、ご尽力していただい ております。それに報いる為、日当をお出しするこ とになりました。

今年の干支は「丙申」です。諸説によると「形が 明らかになる」、「実が成熟して行く」という成長 段階で、これまでの努力が形になっていく年と言 われています。校友会においても、4年間の改革 を実りあるものにしたとと考えております。

これからも皆様のご意見を伺いながら、校友会活動の更なる活性化のために頑張りたいと思 いますので、今後ともご支援とご協力をお願い申 し上げます。

## 『変化・進化し続ける工学院』

校長 小川 明治



学校を取り巻く環境は少子化・教育改革と厳しさを増してきています。

さらに2018年問題と一層の厳しさが予想されています。

一方、専門学校は大きく変化、進化をしようとしております。その代表が【職業実践専門課程】です。

全国で、673校、2042学科。愛知県で、34校、149学科。本校においては、11学科が認定されています。

さらに、昨年の7月3日の政府の教育再生実行会議、第5次提言により、学術研究を基にした大学と、職業教育を専門的に行う高等教育機関創設の検討が、現在、中教審特別部会で審議されています。

いわゆる【新学校種】の創設です。現在、具体的な設置基準等が示されてはいませんが、いずれにせよ、2019年4月には仮称【専門職大学】が開校するのです。

仄聞するところ、論議が大学体系での位置づけが中心となり、専門学校にはハードルが高いようであり、本校も、専修学校の一条化に向け、【職業実専専門課程】の認可も取得しました。次は、【専門職大学】であり、今後の動きに注

視しなければなりません。

さらに、昨年の8月14日に、国土形成計画が決定されました。その中に、地域を支える担い手の育成等として、『地域の実情がよくわかっている、その地域にある学校』として、専門学校も明記されました。今後、益々、専門学校生への期待は高まるものと、確信をしております。日本を支えるのは、職業教育を行っている教育機関、専門学校なのです。

在校生の皆さん、卒業生の皆さん、大いに胸を張り、夢を持って前に進んで行ってください。

本校も、63年という伝統を守りながら、甘んじることなく、常に進化をさせ、全教職員が一丸となり、新しい歴史を築いてまいります。

最後に、校友会会員の皆様の、益々のご健勝とご活躍をお祈りするとともに、本校へのご支援、ご協力をお願いいたします。

(3)

## 「卒業される皆さんへ」

映像音響科

平成27年卒 宮澤 陸

私が平成27年3月に映像音響科を卒業し、株式会社映像センターに入社してから半年以上が経過しました。仕事内容は、会議や式典、結婚式、展示会、時にはアーティストのライブツアーで使用する映像・音響機器を会場へ搬入し調整、操作をして本番が終わったら搬出……といったことを行っています。

入社直後の4月は研修期間後、5月に入ってから毎日現場に出て、クライアントやお客様とやり取りをしながらの作業が主であり、紛れもなく本番です。学生時代も現場として機材やケーブルを準備して搬入、限られた時間の中で設置や調整をする実習を行っていました。そういった技術的な面では入社した現在もその時に体験した現場と似ています。明らかに異なっている点があります。それは、当たり前のことです。それが、すべてのものに「お金」が発生しているという点です。クライアントやお客様は「お金を払ってプロに依頼しているの

だから心配ない。」と考えています。入社して1年も経っていない私でも、現場に出れば「プロの技術者の一人」として要望に応えなければなりません。最初の頃は常に先輩がフォローしてくれましたが、一人で現場を任されることが増えてきた現在では、その責任のしかかかってきます。

そして、その重圧の中で、つい忘れがちなのが、お客様へのサービスです。例えば機器の配線一つでも、正常に動作すれば接続したケーブルを乱雑に放置して良いわけではありません。綺麗にまとめ、お客様に不用意に触れてトラブルが起きないように設置・配線し、さらに説明書きも付け加えて、自らの不安要素も減らしていくサービスを心がけています。

入社して間もなく、分からないことや不安もまだまだ多いですが、在籍した2年間で学んだ基礎は、業種に関わらず社会に出る上で必要なものだったと確信しました。この基礎とは専門的・技術的なことではなく、礼儀、行動で必要な基礎なのです。このことを何年経っても忘れないように、お互い頑張りましょう。

## 「電動機・発電機を一新しました」

電気電子学科

平石 義博

電気工学科で実験に使用していた電動機・発電機を一新しました。

約40年使用し、愛着もあり感慨深いものがありました。長年の使用による経年劣化もあり、この度の話となりました。聞くところによると、以前の電動機は先輩の先生方がフレームを手作りしたとか。それを聞いた時は、先生方の技術力に驚きました。

電動機入れ替えの話がスタートしたのは10月頃です。4月には授業がスタートするため、3月中旬には設置完了しないとイケません。納期が3ヶ月程かかる事や余裕を考えると、11月末には話をまとめる必要があります。

基本的に、現状のものと同じのものという路線で考えますが、実験上の改善点がいくつかあったため、それを改善できる仕様を業者と相談します。しかし、実際に話をする、なかなか思うように進みません。

改善点を出し、それに対して案をいくつか出しますが、うまく改善できない案件は、業者と一緒に考えます。その時は、気づかなかった改善点が後日出てきたりして、なかなか議論はつきません。

そうこうしているうちに、11月末になってしまい結局ギリギリで話はまとまりました。しかし、全部で8セットもあること、電動機の巻線は手作りであることなどが重なり、2月の納品は間に合わず、3月中旬になってしまいました。

何とか4月の授業には間に合いましたが、その後も付属品などの追加があり、業者との話し合いで苦労しました。

その時は、とても大変でしたが、今となつては、これも良い経験だったと思えます。

この入れ替えにかかった時間は莫大なものでした。何度も部屋に足を運び、業者や先輩の先生方とも話を重ねました。その結果、とても良いものができたと自負しております。

お時間のある方は、ぜひお立ち寄りいただき、一度見ていただければと思います。



# 平成26年度 校友会事業経過報告

年月日 事業内容

26・5・27 校友会常任役員会 開催

26・6・28 校友会支部長総会 開催

26・6・28 校友会長野支部総会 開催

松橋・出席 26名

26・7・10 校友会メールマガジン

【かもめメールNo.34】配信

26・10・12 校友会メールマガジン

【かもめメールNo.35】配信

26・10・26  
～  
27

学園祭 校友会コーナー運営

26・11・1 校友会沖縄支部総会 開催

坂田・池戸・堀内・小林

出席 13名

26・11・8 校友会静岡支部総会 開催

池戸・堀内・坂下・平石

出席 16名

27・2・10 校友会常任役員会 開催

会則改定

27・2・24 校友会常任役員会 開催

校友会賞審査

27・3・9 校友会賞授与

27・3・9 校友会誌『かもめ』

第56号発刊

27・3・16 校友会誌『かもめ』

(1399通発送)

## 各支部長

### および支部連絡先

▽東京支部長 板屋越 一機

平成4年 電気工学科卒業

・支部担当 松岡 昇

▽大阪支部長 井上 雄三

昭和56年 電気工学科卒業

・支部担当 荒木 俊行

▽三重支部長 瀬野 喜久

平成3年 情報処理学科卒業

・支部担当 森下 啓司

▽富山支部長 島 大地

平成24年 電気工学科卒業

・支部担当 村崎 博樹

▽石川支部長 坂本 守

昭和52年 第一部電子工学科卒業

・支部担当 石黒 誠

▽四国支部長 松浦 正昭

昭和34年 第一本科学卒業

・支部担当 高須 真人

▽沖縄支部長 南風原 武則

平成4年 電気工学科卒業

・支部担当 小林 真治

▽静岡支部長 富田 明

昭和53年 電気工学科卒業

・支部担当 坂下 正義

▽長野支部長 市瀬 耀一

平成25年 電気工学科卒業

・支部担当 松橋 卓也

☆支部担当連絡先

名古屋工学院専門学校

校友会各支部担当者

所在地 名古屋市熱田区

神宮四丁目7-21

電話 052-681-1311 (代)

## 第31期校友会常任役員

会長	池戸 博行
副会長	岩井 敬典
副会長	松岡 昇
書記	古市 雅邦
会計	石原 昭
幹事長	堀内 豊
幹事	村岡 好久
幹事	竹下 啓太
幹事	根岸 雅巳
幹事	坂下 正義
幹事	高須 真人
幹事	松本 英晃
幹事	梶間 泰
幹事	長谷川和宣
幹事	石黒 誠
幹事	隈元 良一
幹事	松橋 卓也
幹事	神谷 裕之
幹事	村崎 博樹
幹事	平石 義博
会計監査	田中 和彦
会計監査	神谷 公司
相談役	小川 明治
相談役	坂田 和義
参与	倉田 豊行

(5)

平成26年度 校友会収支決算書（一般会計の部）

収入の部 合計金額 24,955,969 円  
 支出の部 合計金額 24,955,969 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	23,062,061	会誌発行費	336,440
校友会活動費	1,828,000	支部結成・維持費	1,879,204
預金利息	3,408	講演会費	0
支部負担金の返金	19,000	援助費	25,000
電波学園活動援助金	43,500	慶弔費	5,355
		備品消耗品費	0
		校友会賞費	50,538
		功労賞費	30,050
		ホームページ制作・保守費	1,135,080
		会議費	0
		会長交際費	24,300
		学園祭協賛費	86,781
		予備費	0
		次年度繰越金	21,383,221
合計	24,955,969	合計	24,955,969

平成26年度 校友会収支決算書（特別会計の部）

奨学金特別会計

収入の部 合計金額 29,860,917 円  
 支出の部 合計金額 29,860,917 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	5,253,468	今年度貸付金	0
前年度貸付繰越金	16,705,000	事務・通信費	0
一般会計から	0	次年度貸付繰越金	15,876,500
預金利息	2,449	次年度繰越金	6,084,417
奨学基金	7,900,000	奨学基金	7,900,000
合計	29,860,917	合計	29,860,917

# 「歴史に幕が下りた」

電気工学科は昭和50年開設の学科です。今年で開設40年となりました。科名は開設当時のままで、現在まで主任技術者の育成を行ってきました。卒業生も四千八百人余りになり、在学中に電験三種に合格して主任技術者免状を手にした学生も千三百人近くになります。認定を受けているので卒業後、実務経験により免状を手にした者も数多くいます。その認定を受けている開設当時からの実験機材である発電機、電動機の実験装置をこのたび一新しました。



新しい発電機、電動機の機材

40年の間、学生の為、休むことなく今まで働き続けてきた機材です。長きにわたり、大きな故障もなく黙々と回っていたのです。始動器を操作するとグオオンとうなりだし、ウオン・ウオン・

ウオンと回りだします。界磁を操作するとウイーンと回転を上げていきます。たまに、学生が負荷をかけすぎて

キューインと悲鳴を上げながら息切れをして立ち止まってしまいます。中には、結線の間違えて、回りだす前にバシッと音を立てて電気が途絶えます。そんなとき、電動機はじつと回してくれるのを待っています。うまく電気を供給してくれるとうれしそうにルルルルと駆け出すのです。こうして、今まで学生と寄り添いながら、また、新たな技術者の育成のため力を貸してくれていました。まだまだいけますよ、なんていつていたのかも知れません。

今は、8セット20台の新人たちが控えめに静かにシューインと回っています。

(新デンセンマン)

## 『今年もスゴイ』

### コンピューター・IT分野

今年もやりましたよ！ 情報処理技術者試験の最高ランク、スペシャリスト試験の連続合格記録を16年に更新しました！

さらに今回は、我が校で初となる「エンベデッドシステムスペシャリスト」の合格者が誕生したのです。合格者は情報総合学科4年の木村君。詳しくは「特筆すべき学生」のページをご覧ください

さい。

基本情報技術者試験の在校生取得者数も3桁を継続し、115名となりました。次年度以降もこの成果は続くことを確信しています。

情報デザイン科の学生が参加した「建設業入職者増加プロジェクト」が、何と新聞3紙(中日新聞・朝日新聞・建設工業新聞)に掲載されました。このプロジェクトは、中部圏の建設業界を盛り上げ、若い方々にもっと建設業界に興味を持って参加して欲しい！という思いから立ち上がったプロジェクトで、彼らは就職希望者とターゲットとしたWeb制作を担当しました。これで、建設業界も若い力で賑わっていくことでしょう。

学園主催の「クールビズポスターコンテスト」では、情報デザイン科2年の富士さんの作品が最優秀賞を受賞しました。クールビズの期間中、受賞作品のポスターが姉妹校の各校で活躍しました。また来年もこの紙面で言いたい放題できるような頑張るぞ！



「建設業入職者増加プロジェクト」でのプレゼン。立派な発表でした！

(ITゴースト)

## 『現場に参加する支援学生とは』

映像音響科の学生が、毎年、学外支援特別実習に参加しております。年間27現場あり、高校のイベントを中心に音響、照明、映像などの分野の支援行っております。入学してから1年生は、まず大きな声での挨拶で始まることから訓練してマナーを身に着けます。基礎実習ではケーブル巻きから始まり、手早くできるように練習をします。座学では、7科目の専門科目を勉強します。授業以外の時間に自発的に残る学生。これ残業の訓練。補講を受けるなど課題がいっぱいです。

スタッフとなる学生は、次のようなことをマスターしなければいけません。それは、機器名とその型番、物の大きさは覚えており、機器のシステムを覚えて取扱いを学び、現場の広さと先方のプランニングを作ります。本番前には必ず仮組をして、OKならば最終確認。運搬準備して車に積み現場へ。セットアップして本番を迎えます。終われば即、撤収して機材を戻し反省会と機器チェック。最後に、報告書を提出して完了。

指導する先生、業界で活躍する卒業生などの補助があり、メインは学生スタッフフ中心の集団です。

先方さんに喜んでいただけることが優先です。

## 『マジメにスゴイゲーム・CG』

ご存知ですか？本校のゲーム・CG分野。実は、国内でも有数のコンテスト受

(7)

賞実績を誇り、世界中のゲームファンが集まる東京ゲームショウに、学生作品を展示し、業界関係者に向けて、学生が自ら、自分の作品を解説する教育機関として、知られていることを。

これらの結果を支えているのは、学生の日々の努力で、工学院1号館の3・4階を中心に、CGクリエイターやゲーム開発者を目指す学生が、作品制作や技術習得のため、毎日遅くまで、頑張っているからです。制作用のPCに向う彼らの手は、キーボードとマウスから離れる事は少なく、かわいいキャラクターとカッコいい画面を見つめながら、「ああでもない、こうでもない」と試行錯誤を繰り返して、作品を生み出し続けます。それらの活動が、スゴイ結果を生んでいくのです。

名古屋市が主催する「デジタルコンテンツ博覧会2015」においては、ヘッドマウントディスプレイ体験コーナーを支えたのは、中部圏にある複数のゲーム関連学校の中で、唯一本校の学生作品でした。同イベントの学生ゲーム作品の紹介も大半が工学院となりました。

全国に目を移すと、株式会社DeNAが主催し、ゲームの企画から完成まで、同社が監修し、制作を進める

「HEAT Dev」の対象校と選択されたも工学院。大学を含め全国で3校のみの荣誉ですから、如何に本校が評価されているかを証明しています。勿論、この

「HEAT Dev」活動にて、最優秀の「HEAT dev 大賞」になったのも、本校の学生作品「コラプス」(ゲーム総合学科3年・古川 貴士 作)です。

これらの、「マジメにスゴイ」を今後もドンドン出していきます。今後もゲーム・CG分野にご期待ください！  
(トリプルクリック)

### 『Ene-IGP』初参戦

8月2日、機械工学科が中心となり製作した電気自動車が、鈴鹿サーキットのEne-IGPに初参戦しました。



5年前から始まったこの大会は、充電式単三電池40本で鈴鹿サーキットの国際レーシングコース5、807kmを3週走行し、合計タイムを競います。

今年は94チームのエントリーがありました。

普段は鉄材の加工を行っている学生たちですが、軽量ボディの製作はカーボン

シートと樹脂用のパテ塗り用の刷毛を持ち、ペタペタ&ヤスリがけです。昨年から製作を始め、様々な改良を加え、試走の日を迎えました。

そして迎えた6月15日の試走会では、上り坂の勾配のキツさに啞然。高低差40mはダテじゃありませんでした。

8月の本番まで残り1ヵ月半。駆動系の大幅な構造変更を行いました。内装5段ギアを組み込み、駆動モータに大電流を流すため、電池ボックスの耐熱・冷却対策も行い本番に臨みました。

万全を期したつもりでしたが、結果は残念ながらリタイア。

最後の急勾配の途中、過電流により樹脂の電池ボックスが溶け、急勾配の途中でストップしてしまいました。

それから4ヵ月半。改良に改良を重ね、現在はアクセル全開で8km以上走行可能。工学院の6号館地下からのスロープも楽々登ります。今後はエネルギーマネジメントを考え、今度こそ完走を目指します！

(産業技術学科 長谷川 和宣)

### 『電子・デジタル家電分野の話題』

今年度の就職内定状況から説明しましょう。景気状況は上向き傾向にあると言われているますが、近年に無い急激な不安傾向、世界的な原油価格の下落。近年まれにみる世界情勢の不安定要素等の影響も関係をしてか、まだまだ厳しい社会情勢の中、該当の全三クラスが、目標とする年度内100%を達成できるように頑張

っています。

それぞれがあと2〜3名の未決定者を残すのみとなりました。

今年も勿論、警察庁中部管区警察局、日本テクニカルサービス(株)、(一財)移動無線センター、教育産業(株)、パナソニック コンシューマーマーケティング(株)、(株)エディオン等と、目標とする優良企業から多数の学生が内定をいただいています。

次に、超難関国家資格取得の近況です。電子情報研究科では、陸上無線技術士の資格に合格者が出ています。第1級陸上無線技術士に笠原健太郎さんと石田智之さんの2名。第2級陸上無線技術士に米村岳記さんが、合格しました。難易度の高い試験ですが、日々の地道な努力がこの様な結果として実を結びました。

最後に、『工事担任者A I・DD総合種』の認定講座です。

総務省より認可され、平成12年度から継続する認定講座も今年で16年目に入りました。今年度は、電子情報学科1年生が、全員取得を目標に頑張っています。この中には、女性が2名含まれています。

この認定講座により、ほぼ6ヶ月間の勉強で情報通信技術者として是非とも欲しい価値ある資格が取得できるようになりました。まるで夢のような話ではありませんか。例年のように、3月中旬には、合格の目途が立ちそうです。

この2名は、難関国家資格の陸上無線技術士の資格取得も目標に、毎日努力を重ねています。

(平成28年1月記載 デジデジ)

## 【特筆すべき学生】

最近の工学院で特筆する学生を紹介いたします。後輩の頑張りを讃えて下さい。

### ●公務員合格

電子情報研究科1年

笠原 健太郎さん

超難関とされる第1級陸上無線技術士の試験ですが、今年の電子情報研究科では2名の学生が取得しました。その中の1名である、笠原健太郎さんについてです。

笠原さんは、岐阜工業高校出身で、工学院入学後、無線技術者を目指し、無線技術者試験の取得に励みました。本来なら、第2級陸上無線技術士を合格後、第1級陸上無線技術士を受験するのですが、笠原さんは、いきなり第1級陸上無線技術士の取得を目指しました。そして2回目の挑戦で見事に第1級陸上無線技術士試験に合格しました。

就職では、その資格を活かし、警察庁中部管区警察局に内定をいただくことができました。警察庁は採用試験の時期が遅いことや第1級無線技術士の取得者がいないこともあり、久しぶりの内定者です。

笠原さんは、残り少ない学生生活を趣味である電車旅行に使いたいとのことでした。

### ●スペシャリスト4冠王

情報総合学科4年 木村 優介さん

これまで、スペシャリスト試験の3冠を手にする学生が現れ、この紙面で紹介してきましたが、今回はその上をいく「スペシャリスト4冠」を達成し、「スペシャリスト試験の完全制覇」を成し遂げた学生の紹介です。

4冠を達成したのは、情報総合学科4年の木村さんです。木村さんは昨年度に3冠を達成し、今年度に4冠目となる試験に合格しました。4冠目に合格したのが、我が校でも初となる「エンベデッドシステムスペシャリスト」でした。この時、中部地区の専門学校生で合格したのは木村さんのみ。まさしく快挙です！木村さんに話を聞いたところ次のように答えてくれました。

入学して最初に受験した基本情報技術者を受けた時は、余裕で合格できそうな状況ではなく、精一杯やって何とか合格した感じでした。そこからは、目の前の資格を1つずつ合格することを目指していきました。自分が少し自身を持ったのが、ネットワークスペシャリストに合格した時です。その時に「スペシャリスト試験でも複数行けるかも!？」と手応えを感じました。大切なのは、毎日の授業でしっかりと学び、継続的な積み重ねが力になるなと思えました。あえて言うなら、合格するための勉強ではなく、満点を目指す

勉強を意識して取り組みました。就職先はインターネットサービスのコミュニケーション(株)に内定いたしました。まだまだ伸びる人材であり、将来の活躍を大いに楽しみにしています。



情報総合学科4年 木村優介さん

愛知県・名古屋工学院専門学校高等課程出身

### ●完全制覇

電気工学研究科1年

木村 龍一さん

電気工学科に入学した学生たちが目指すものとして、資格取得と就職があります。この2つを目標として日々努力を重ねています。

資格では第3種電気主任技術者と第1種電気工事士取得が挙げられます。近年この資格を2年生で取得した学生は、更にエネルギー管理士と第2種電気主任技術者取得を目指しますが、これは非常に高いハードルになります。

就職につきましては、中部電力をはじめとする上場企業または、中部電気保安協会などの公益法人を目指します。中でも中部電力は、電気を学ぶ学生たちにとって憧れの企業になります。しかし、毎年の求人が2から3名程度とこれも非常に高いハードルになります。

今年は、電気工学研究科の木村龍一さんがこの全ての目標を達成しました。彼は、高校時代国立大学に入ること目標にしていましたが、力わずかに及ばず、第2希望である電気技術者に必要な資格取得を目指し本校に入学しました。入学後は、迷うことなく、取れる限りの資格を取ることに、憧れの企業である中部電力入社を目指し努力を重ねてきました。これらを全て達成し、今では、本校に入学して本当に良かったと言ってくれています。私たちも彼のような学生に出会えて本当に良かったと思います。

人生は、ほんのわずかなことから大きく変わるものです。木村さんが国立大学を目指した理由は、中部電力に入ることが目標でした。しかし、本校に入学しても、結果的には同じゴールにたどり着くことが出来ました。彼のように与えられた場所で、努力を積み重ねれば結果は自ずとついてくると改めて思うことが出来ました。彼に続く学生に出会えることを楽しみにしています。



# 学園あれこれ二〇一六

## 日頃は見せない先生方の素顔を

### ちよつと拝見

工学院の1号館、3号館、10号館に強力な新人現る。

▼まずは1号館の北畑先生。秋の国家試験では担当クラスから大量の合格者を輩出し、1年目から大活躍！そのお祝いに学部長の竹下先生宅で盛大なバレーキュー大会の運びとなった。



北畑先生は名駅集合の予定だったが、出発時間になっても現れない・・・。電話すると、「あ、今起きました！」と北畑先生。なかなかいい度胸じゃないか。待ちくたびれた竹下先生の手の中でトングがカチカチカチンと鳴っていたとか。

▼続いて3号館の相崎先生。経験豊富で物腰も柔らかい、大変生真面目な先生です。紙切れ1枚でも両手を添えて渡される。受け取る方は、大変恐縮して思わず両手を差し出す。

机上に置かれたままのお菓子を隣席



の岩佐先生が、虎視眈々と狙っている。餓えたドラ猫にもやさしく手を差し伸べる相崎先生はいつも神対応だ。

▼次は10号館の佐々木貴久先生。

学生時代、弓道部の後輩指導係りを務めたイケイケドンドンの体育会系だ。

歓迎会での席、メイン料理に出てきたのが魚1匹丸ごと塩釜、カチンコチンに固まっている。そのとき、彼の目が光り、稲妻が走った。なんと塩釜は佐々木ヘッドバットに見事に粉碎され、周りの人は箸を出すだけでよかった。



▼まだまだ若い人には負けてはおられないと、鼻息が荒いのは勤続40年を迎えた中島富先生。



若いときにはスキーでブイブイいわしてきたが、数年前にスキー指導員の資格を返上して以来、大人しくしているかと思ったら、今は、野球にゴルフとバリバリで楽しんでいるそう。

▼今年も登場、お騒がせ男の小林先生。2度も自転車で転んだという情報が入ってきた。



血だらけの写真も入手したのだが、とてもここに載せるわけにはいかない。右の写真で、勘弁を。

▼教務課の村崎先生が、六号館地下で野良猫と格闘している。居心地の良いバケツの中で、子猫を生んで勢力拡大中とのこと。苦肉の策で、侵入防止ネットを設置しこれでひと安心、のはずだったのが、ネットを飛び越えるネゴの相次ぐ目撃情報に頭を抱えている。

▼情報学科の長谷川勲先生は自他ともに認めるAndroid好き。早速Android phoneのスマートウォッチを購入して、電話の着信やメール受信があると、スマホには目もくれず、内容をさらりと確認するスマートさがカッコいい。が、購入するにあたっては、強大な財務大臣ファイアオール（奥様）を突破する必要があります。その辺りを調べてみると、「卒業研究でこういうのも

○▼※△☆▲※◎★」とか「購入するストアのクーポン券が残っているから○▼※△☆▲※◎★」など、うまいこと言って、手に入れたらしい。そのテクニクは見事だ。

▼鈴木由美子先生が名古屋ウィメンズマラソンに出場、マラソン初参加にして見事に完走！参加したランナーは☺の機能で管理され、公式サイトで現在どこを走っているかがリアルタイムに配信。それをチェックしていたのが佐々木昇先生。ある時間からしばらくの間、急にスローダウンしたのをすかさず「ランチしながら走ってたに違いない。」と分析。翌日、全身筋肉痛で喘ぐ鈴木先生が一言、「えっ、バレてたの？」と首をかしげた。

▼安藤巧先生に振り回される学生がいた。欠席届を提出に来たら、「松田先生が5階に見えるから5階に行きなさい！」学生が会いたかったのは「松本先生」だったのに・・・。

▼ゲーム・CG分野のある日の朝礼で、科長の根岸先生が、指示を出した。

「皆さん、自席を離れるときは、PDSを必ず携帯すること！」その舌の根が乾く間もなく机上で「ピーピー、ネギネギ」と鳴っていた。根岸先生は、そこにいなくてもやっぱり騒がしい。

◎まだまだ話は尽きないが、今回のところは、この辺で。  
(優良可)

# 平成 27 年度 母校のおもなできごと

景気回復の兆しが見えてきた平成 27 年度。求人状況も昨年度と比べ好調であり、工学院生が先輩方同様に活躍できる場が多くありました。その場に立てるよう、在校生達は、資格取得、技術習得に日々努力を重ねてきました。今年度のおもな出来事をまとめてみましたので、卒業生の皆さんも、学生時代を思い出しながらご覧ください。

8月1日 日本グラフィックサービス工業会主催

第3回年賀状コンテスト

優秀賞 ゲーム総合学科 伊藤 江梨

作品賞 ゲーム総合学科 加藤 佑真

近藤 崇博

渡辺 倅加

ゲーム研究科 水野 翔真

8月2日 エネルギー管理士試験

8月7日 (株)ヘキサドライブ特別講演

8月20日 夜間部始業

8月25日～9月10日 第一級陸上特殊無線技士講習会  
55名取得

9月5日 第二種電気主任技術者試験 (一次試験)

9月6日 第三種電気主任技術者試験

第30回マイクロマウス中部地区初級者大会

優勝 ロボティクス創造学科 永田 晃弘

ロボットレース競技

3位 ロボティクス創造学科 荻野 陵

支部サーキット競技

優勝 ロボティクス創造学科 鈴木 啓真

準優勝 ロボティクス創造学科 永田 晃弘

ロボスプリント競技

優勝 ロボティクス創造学科 今井 悠太

準優勝 ロボティクス創造学科 鈴木 啓真

家電エンジニア・アドバイザー試験

Pro Tools 技術者認定試験

9月7日 (株)forincコミュニケーション主催

「シニア世代の若さ発育ゲーム開発コンテスト」

努力賞 ゲーム総合学科 傍島 凌弥

9月9日 家電製品アドバイザー試験

9月17日～20日 東京ゲームショウ2015出展

見学ツアー実施

9月25日 公益財団法人 中山隼雄科学文化財団による

研究成果発表会 学生作品発表



4月8日 電波学園合同入学式

4月9日 始業

4月19日 春期情報処理技術者試験

4月24日 第1回県人会

5月14日 第1回・企業説明会

5月16日 東海地区教育懇談会 (卒業クラス)

5月24日 工事担任者試験

5月27日 明治寮・明治寮北館避難訓練

5月29日 献血運動

6月6日 堀川まつりポスター採用

ゲーム研究科1年 中川 武志

第二種電気工事士筆記試験

6月8日 映像音響処理技術者資格認定試験

6月21日 第1級CAD利用技術者試験

6月27日 寮ボウリング大会

教育懇談会/県人会担当教員が各地区へ  
赴き保護者との面談を行った。

6/27 富山・高山、6/28 長浜・郡上、

7/4 石垣・宮古・熊野・松本、

7/5 那覇、伊那、飯田、

7/11 静岡・金沢、7/12 浜松・福井

6月28日 校友会支部長総会

色彩検定

デジタル技術検定試験

7月2日 (株)ディー・エヌ・エー主催

HEAT Dev 2015

7月6日 サウンドレコーディング 技術認定試験

7月8日～7月10日 第1・2級陸上無線技術士試験

7月12日 CG-ARTS検定

7月18日 (株)スクウェア・エニックス特別講演会

7月19日 3次元CAD利用技術者試験

7月25日 (株)トライクレッシェンド特別講演会

第二種電気工事士技能試験

7月27日～31日 前期末試験

7月31日 昼間部・夜間部終業

(夏期休暇)



(11)

- 12月6日 第一種電気工事士 技能試験
- 12月12,13日 デジタルコンテンツ博覧会  
NAGOYA出展
- 12月22日 情報学科 卒業生座談会  
トピックス(株) 山口様  
トリオシステムプランズ 野尻様
- 12月22,23日 全国専門学校ロボット競技会
- 12月23日 第3級シーケンス制御技能検定実技試験
- 12月24日～1月11日 昼間部、夜間部冬期休暇
- 1月5日～8日 第3回 スキー・スノボツアー  
鹿島槍スポーツヴィレッジ
- 1月15日 県人会
- 1月20日～23日 第1級、2級陸上無線技術士試験
- 1月21日 産業技術学科卒業研究発表会
- 1月22日 情報学科 模擬面接会
- 1月24日 第2級、3級シーケンス制御技能検定学科試験
- 1月28,29日 情報学科 卒業研究発表会
- 1月25日～29日 卒業試験
- 2月5日 電子情報研究科 卒業研究発表会
- 2月5日～12日 進級試験
- 3月6日 家電製品エンジニア・アドバイザー試験  
(AV情報家電・生活家電)
- 3月9日 茶話会  
家電製品アドバイザー試験  
(AV情報家電・生活家電)  
校友会賞授与式
- 3月10日 卒業式
- 3月14日 工事担任者AI・DD総合種  
養成課程修了試験
- 3月15日 終業
- 3月16,17日 学園総合企業説明会
- 3月19,20日 第20回熱田の森ロボット競技会

- 10月1日、2日 ゲーム・CG分野  
前期末特別制作展示・発表会
- 10月4日 名古屋フィルムミーティング2015  
観客賞 ゲーム総合学科 西松 裕紀  
川地 有輝  
第一種電気工事士 筆記試験
- 10月17日 東海地区 教育懇談会
- 10月18日 秋期情報処理技術者試験
- 10月25日 第34回マイクロマウス中部地区大会  
マイクロマウスクラシック競技  
準優勝 ロボティクス創造学科 永田 晃弘  
支部サーキット競技  
3位 ロボティクス創造学科 鈴木 啓真  
ロボスプリント競技(一般)  
優勝 ロボティクス創造学科 鈴木 啓真  
3位 ロボティクス創造学科 荻野 陵  
ロボスプリント競技(ワンメイク)  
優勝 ロボティクス創造学科 今井 悠太  
準優勝 ロボティクス創造学科 大田 純人  
3位 ロボティクス創造学科 永田 晃弘
- 10月24,25日 名学祭 テーマ「刻む～新たな一歩～」
- 10月25日 日本マイクロソフト(株) 特別講演会
- 11月11日 第30回全日本マイクロマウス大会  
マイクロマウスクラシック競技  
3位 ロボティクス創造学科 永田 晃弘
- 11月5日 体育祭(日本ガイシホール)  
優勝 メディア学科  
準優勝 情報学科  
(株)forincコミュニケーション主催  
「シニア世代の若さ発育ゲーム開発コンテスト」  
努力賞 ゲーム総合学科 傍島 凌弥  
今井 勇仁 西村 祥一  
広瀬 和馬 山田 竜  
堤 俊樹
- 11月8日 エピック・ゲームズ・ジャパン合同会社  
特別講演会
- 11月15日 機械設計技術者試験 デジタル技術検定試験
- 11月16日 社団法人日本塗装工業会主催  
第17回「いろいろ塗装の日」  
ポスターデザイン画コンテスト  
優秀賞 ゲーム総合学科 渡辺 倅加
- 11月20日～22日 マイクロマウス2015
- 11月20日 情報学科 卒業生講演会  
ソフトバク(株) 片山様  
トピックス(株) 山口様
- 11月22日 第一種、第二種電気主任技術者 二次試験  
工事担任者試験
- 11月27日 (株)ディー・エヌ・エー特別講演会  
HEAT Dev+開催



## 『大阪支部はノリ・ツッコミ?』

大阪支部担当 荒木 俊行

大阪支部総会には、これまでに2度ほどお邪魔しております。たった2回の参加に過ぎませんが、強烈な印象を受けております。

2回の参加は何れも、大阪支部の方々のリクエストに応じて呼ばれた先生方の御供? のような、感覚で参加いたしました。

初参加の時の事です。お世話になった先生を囲んでの懇談は、和気藹々にとスタートしていきます。挨拶として、最近の学校の様子をと、意気込んで話を始めましたが、少々空回り気味で、纏まりのない話を、主賓の豊田先生が引き取って、見事に纏めてくれました。参加者の近況報告では、前大阪支部長の華麗な転身振りに、周りから声援を送る声がかかり、早くもこの支部のノリの良さ? を感じた次第です。

会の初めから、初参加の私に対しても、いきなり馴れ馴れしく? いや、親しげに? 話しかけてこられます。テレビでお馴染みの? あのノリで迫ってこられます。終始、受身の私は、迫りくるマシンガントークに圧倒され

ながらも、何とか、現状をお知らせするのが精いっぱいという状況でした。

幸い、参加者の半数余りが、同年代であったため、学生時代を語る時に、共通の話題が多かったのは、より親しみを感じるきっかけとなりました。ただし、その話の内容は、やんちゃな事例の数々で、次から次へと、走馬灯のように、あれは誰それがやったのだ、それはワシが関与したのだ、今では良い? 思い出的に当時のハチャメチャ振りを、懐かしんで見えました。

中でも、軽妙なトークの中に、ボケと突っ込みの応酬はたまに、「なんやねん」「なんでやねん」が飛び交う様を見せつけられ、唖然とする場面も多く、ほとんど聞いていただけ…、という状況の内に、会はめでたく、無事? 終了いたしました。

その後、校友会支部長総会、2回目の支部総会参加と、支部の方との交流を持つ機会を重ねております。

2回目の大阪支部総会では、若干余裕が出て参ったかと思えます。しかし、まだまだ全く関西人のノリ? に付いていけず、テンポの良い会話に、遅れをとることが多かったようです。それでも、他の主賓のお二方の先生共々、歓迎して頂けたことと、相変わらずの

パワーに圧倒された点は、印象に残っております。

支部の方々と話を重ねてみると、相手を、(あるいは周りを) 楽しませようという気概を感じ、それは毎回、愉快な時間を過ごさせて頂いております。突っ込んだ話もサラッと流して次へ展開する様など、見事なものです。話術の巧みさは、根本的に、相手を楽しませようという、根っからのモノがあるのかもしれない。

次回の支部総会を楽しみにすると同時に、若い方々の参加も是非とも期待したいところです。参加することで、何か得るものがあるはずですよ。



## 編集後記

地球温暖化という言葉が頻繁に聞かれるようになってから久しいが、昨年末の暖かさに、スキー場ではやきもき、年が明けた途端に、大寒波襲来。

日本列島が氷点下、鹿児島県の平野部でも20センチの積雪、奄美大島では、115年ぶりの降雪に、初めて雪を見る子供たちのはしゃぎぶりがニュースに流れていた。宮古島では、熱帯魚があまりの寒さに仮死状態になったそうだ。

そんな中、海辺に遊びに行つたとき、遊覧船に乗り、カモメの餌やりをした。カモメも心得たもので、うまく餌をつまんだ指先の近くまで飛来してタイミングよくキャッチしては離れていく。カモメとの触れ合いも、当方の独りよがりの感も無くはないが、それはそれで楽しかった。同じカモメにも渡りをするもの、1年を通して同じ場所に生息するもの、いろいろな生態を種ごとに持っているようだ。

太古の昔から、移りゆく地球の環境変化に、種の存続を賭けて、生きながらえて来ているのを感じる。人間社会も、これからますます複雑になり、数々の対応を迫られることだろう。

校友会員諸氏の若い力を存分に發揮して、社会の荒波を乗り越えていってほしいと願うばかりです。(花鳥)